



Shikoku
Cancer Center News
No.90

四国がんセンター ニュース



2025
春の号

基本理念 患者さんの立場にたち人格を尊重し、科学と信頼に基づいた最良のがん医療を提供します。



(上浮穴郡久万高原町 大川嶺 (ツルギミツバツツジの群生) 撮影: 俊野健治)

臨床研究センター長 就任にあたってのご挨拶

このたび、四国がんセンター臨床研究センター長に就任いたしました仁科 智裕と申します。

がんの治療は、日々進歩しています。近年では、がんの性質をより深く理解するために、細胞の働きを解明する「分子生物学」や、遺伝子の変化を詳しく調べる「ゲノム解析」といった技術が大きく発展しています。これにより、一人ひとりのがんの特徴に合わせた新しい治療法（個別化医療）が次々と開発されるようになりました。私自身は、前職において、がんゲノム医療センター部長として、がん薬物療法を中心に、個別化医療の実現を目指した臨床研究にも取り組んでまいりました。多くの患者さんと向き合う中で、最新の研究成果をいち早く医療現場に活かすことの重要性を日々強く実感しておりました。

臨床研究センターは、臨床研究推進部、がん診断・治療開発部、がん予防・疫学研究部、がんゲノム医療研究推進部の4部門から構成されており、多角的かつ専門的な視点からがん医療を支えています。今後はこの体制をさらに充実させ、医療の発展と患者さんの治療成績向上に貢献できるよう、全力を尽くしてまいります。

当院では、海外の医療機関や製薬会社と協力して行う国際共同治験や、新しい治療法の効果や安全性を確認する第1相試験

など、開発の初期段階にあたる重要な試験も多数実施しています。臨床研究推進部では、「質の高い」「実施率の高い」「スピード感のある」治験推進体制の構築を常に心がけております。今後はさらに対応力を強化し、全国でも有数の臨床研究拠点となることを目指してまいります。

また、当院は四国地域で唯一、国から「がんゲノム医療拠点病院」に指定されており、地域の患者さんに対して高度ながん個別化医療や遺伝性がん診療を提供しています。がん診断・治療開発部およびがんゲノム医療研究推進部では、診療と研究の両面においてさらなる発展を目指せる体制の整備を進めております。

がん予防・疫学研究部では、がん登録およびがん情報の利活用を支援・推進し、正しいがん情報の普及・啓発に努める体制の強化にも取り組んでいます。

「患者さんのために」という原点を常に胸に刻み、より良いがん医療の実現に向けて、挑戦を続けてまいります。今後とも、皆様からの温かいご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



(臨床研究センター長 仁科 智裕)

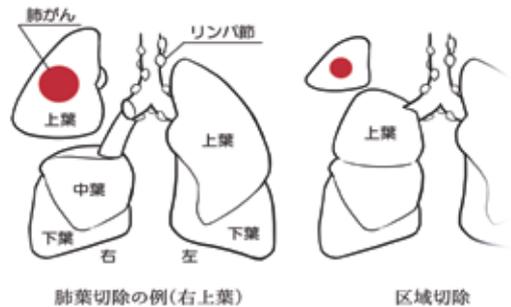


がん治療

最前線

早期肺がんは肺を残した方が長生きにつながる

今回は、肺がんと肺がんの手術についてのお話をさせていただきます。ご存じのように肺がんの最大の原因はタバコです。タバコを吸ったことがない人に比べ、タバコを吸いつづけている人の肺がんになる危険性は、4.5倍と報告されています。また、タバコを吸わない人でも、周囲に流れるタバコの煙を吸うことで、肺がんになるリスクが高まることもわかっています。肺がんは、タバコやアスベストなどの暴露によって、肺の中の正常細胞の遺伝子が障害を受け、がん細胞へと変わり、がんが増殖して周囲に広がったり（浸潤）、体のあちこちに飛び火（転移）したりします。病変（がん）の大きさや浸潤の程度、リンパ節や多臓器への転移の有無によって、がんの進み具合（進行度）が決まります。肺がんの治療は、手術、薬物治療、放射線治療があり、進行度によって治療方針が決まります。近年、治療効果の高い新規の薬物（分子標的薬やがん免疫療法）が多く使用可能となり、肺がん患者さんの全体の長生きにつながっています。しかし、2023年の統計では約7万5千人の肺がん患者さんが亡くなり、がんによる死亡原因の第一位でした。肺がんは自覚症状が出にくく、検診などで発見された肺がんの約6割は治療可能な早期肺がんである一方、咳や痰や胸痛などの自覚症状で発見された場合は、約8割以上が治療の難しい進行肺がんです。肺がんにならないためにも、ご家族や周りの方を含めた禁煙、早期発見のためにも、症状が無くても年1回の肺がん検診の受診は大切です。さて、肺がんの手術は、従来大きく切除すれば再発が抑えられ、長生きにつながると信じられてきました。肺は、右は3つ、左は2つの袋（肺葉）に分かれており、手術は病変のある肺葉とリンパ節を切除することが主流でした。近年、病変の大きさが2cm以下でリンパ節や多臓器への転移のない肺がん患者さんを対象に、袋ごと切除する手術（肺葉切除）とがんを含めた一部の領域をとる手術（区域切除）を比較した臨床試験が日本で行われました。結果は、肺葉の一部を温存した手術である区域切除の方が、長生きにつながるということが立証されました（5年生存率：肺葉切除91.1% < 区域切除94.3%）。現在、当院では「小さな転移のない肺がん」に対しては、完全に病変が取り切れることを前提に、肺葉の一部が温存できる区域切除を積極的に行っています。また、80歳以上の高齢の方や糖尿や心臓病などの持病をお持ちの患者さんの場合、体力的に手術が難しいことがあります。その際は、手術以外の方法として、体に負担の少ない放射線治療をご説明させていただきます。患者さんやご家族さんと相談しながら治療を進めていきますので、遠慮なくご質問やご意見下さい。



(呼吸器外科医長 上野 剛)



治験 CHIKEN CORNER

ちけん

「当院では治験を実施しています」

●現在参加者募集中の治験等情報

- 肺がん ……………27件
- 子宮頸がん……………2件
- リンパ腫……………4件
- 固形がん……………9件
- 乳がん……………6件
- 胃癌……………3件
- 膀胱がん……………1件
- 卵巣がん……………2件
- 大腸癌……………2件
- 前立腺癌……………3件
- 子宮体がん……………3件
- 胆道癌……………1件
- 頭頸部がん……………1件

下記の件数は企業治験、医師主導治験、製造販売後臨床試験の「現在参加者募集中の治験等情報」です。

こちらは、治験・臨床試験支援室です。このコーナーでは、ただ今、参加者募集中の治験等の情報を提供しています。なお、当院HPにて、詳細情報を公開中です。



https://shikoku-cc.hosp.go.jp/rinsyo/trial/clinical_trial_during_the_experiment/



(令和7年3月6日現在)



四国がんセンター血液腫瘍内科は、四国地方における血液がん治療の拠点の一つとして、高度な医療技術と専門的なケアを提供しています。ここでは、主にリンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、骨髄増殖性腫瘍などの血液がんの診断とエビデンスに基づく治療を行っており、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供することを目指しています。

専門チーム

四国がんセンター血液腫瘍内科には、経験豊富な医師、意欲的な中堅医師、がん診療に特化した看護師、抗がん剤に造詣の深い薬剤師など、さまざまな専門家が集まっています。これにより、患者さん一人ひとりに対して包括的なケアを提供することができます。

多職種連携

治療の過程では、多職種の専門家が連携し、患者さんの状態や治療の進行状況に応じて最適なケアを提供します。これにより、患者さんがより安心して治療に専念できる環境を整えています。

研究活動と教育

治療の質を向上させるために新しい治療法の開発や既存の治療の改善を目指して、さまざまな臨床試験に参加しています。現在、NHOネットワーク共同研究「80歳以上未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するポラツズマブ ベド

チン+R-miniCHP療法の有効性と安全性を検証する多施設共同非盲検無対照試験」を主管しています。

四国がんセンター血液腫瘍内科は、リンパ腫の領域において比較的多くの治験を実施しています。これらにより、患者さんに対して最新の治療を提供することも可能となります。

次世代の医療従事者の育成にも力を入れており、愛媛大学及び岡山大学のStudent Doctorの実習受け入れや研修プログラムを提供しています。

患者さんとそのご家族へのサポート

患者さんだけでなく、そのご家族に対してもサポートを行っています。医療連携を担当する看護師・医療ソーシャルワーカーによって、治療中や治療後の生活を支えるための情報提供やカウンセリングが行われ、患者さんとそのご家族が安心して治療に臨めるよう支援しています。

四国がんセンター血液腫瘍内科は、四国地方における血液がん治療の中心的な役割を果たせるよう、高度な医療とケアを最良のかたちで提供するべく取り組んで参ります。
(血液腫瘍内科 科長 吉田 功)



エキスパートナース・メディカルスタッフ

EXPERT NURSE・MEDICAL STAFF

Part.66

「がんリハ」と「リハ専門職」

●「がんリハ」とは？

がんと診断された方や治療を受けている方の中には、「がんリハ」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。「がんリハ」は、がんの治療中や治療後の生活をより快適に過ごすために行われる「がんのリハビリテーション」のことを指します。

がんの治療では、手術、抗がん剤治療、放射線治療などが行われますが、これらの治療によって体力の低下、筋力の衰え、関節のこわばり、しびれ、倦怠感（だるさ）などが生じることがあります。また、食事が取りにくくなったり、息苦しさを感じたりすることもあります。こうした症状を改善し、できる限り普通の生活を続けられるようにサポートするのが、「がんリハ」の目的です。

●「リハ専門職」とは？

「がんリハ」は、医師、看護師、リハビリテーション専門職など医療スタッフが連携して行います。リハビリテーション専門職のことを「リハ専門職」といい、以下のような職種があります。

1. 理学療法士（PT）：筋力や体力の低下を防ぎ、歩行や体の動きをスムーズにするための運動やストレッチを指導します。
2. 作業療法士（OT）：日常生活の動作（着替え、食事、家事など）を行いやすくするための練習や工夫をサポート

します。

3. 言語聴覚士（ST）：飲み込みにくさ（嚥下障害）や、がんの影響で話しづらくなった場合の訓練を行います。

当院では「リハ専門職」が、患者さん一人ひとりの状態に合わせたリハビリを提供します。またリハビリの実施以外にも、在宅復帰を目指す方やご家族に対して日常生活活動に関する助言や介護技術の指導、また在宅医療スタッフと連携していくことも「リハ専門職」の大切な役割です。

●がんリハを受けるメリット

がんリハを受けることで、以下のようなメリットがあります。

1. 筋力や体力の低下を防ぎ、回復を促す
2. 痛みやしびれ、息苦しさの軽減
3. 生活の質（QOL）の向上
4. できるだけ自立した生活を送るためのサポート

がんの治療中でも、体調に合わせた適切なリハビリを行うことで、少しずつ動きやすくなり、日常生活を快適に過ごせるようになります。がんと診断された方や治療を受けている方は、ぜひリハビリについて相談してみてください。

「がんリハ」を取り入れて、自分らしい生活を続けていきましょう！

（理学療法士長 川道 幸司）



アピランスケアセミナー 外見変化への対処法



毎月1回『暖だん』では、アピランスケアセミナーを開催しています。当院では、国立がん研究センターアピランス支援センター主催のアピランスケア研修を修了した医師・看護師・薬剤師・社会福祉士らで構成したアピランスケアチームがあり、チームメンバーが交代でこのセミナーの講師を務めています。2月は看護師が講師となり『紙芝居』を使って『抗がん剤による外見変化への対応、アピランスケア』についてお話ししました。

セミナーの冒頭では、「今皆さんは、抗がん剤の副作用について、たくさんの心配、不安でいっぱいかもしれないけれど心配しすぎないでください。これから、外見の変化とその対処法について色々とお話していきますので、なんとかなりそうだなと少しでも安心できる部分を増やしていただけるといいなと願っています」と、始まります。治療に伴う副作用や脱毛のこと、脱毛中の洗髪、ウィッグの種類や選び方、ケア帽の作り方、まゆげの書き方や眉シール等カモフラージュグッズ、皮膚や爪のケア、日々のスキンケア等と、沢山の対処法について、紙芝居を通して紹介していきます。最後に「社会とつながること、人付き合い」についても外見に変化を持ちながら人に会うのは勇気がいるし、病気のことを言った方がいいかどうか悩んでしまうかもしれないことから、コミュニケーション上の工夫に関するアドバイスがあります。



紙芝居の後は、ウィッグやメイク・スキンケア用品を实际見て触って体験する時間となります。参加された患者さん達からの質問に担当の講師が先輩患者さんの体験談も交えながら対応し、みなさん「わかった！・・・すればいいんだね！」と安心と元気をもらって笑顔で帰る様子を見て、私たち暖だんのスタッフも心から「エール」を送ります。外見の変化に伴う悩みは女性に限られたものではありません。性別関係なくご参加いただけます。

当院では、毎年度5月から翌年3月まで毎月1回、暖だんもしくは病棟でアピランスケアセミナーを開催しています。病棟での開催時(年2回予定)は入院患者さん限定となりますが、暖だん 憩いのひろばで開催時は患者さんやご家族、身近な方々、どなたでもご参加できます。また、暖だんのウィッグ・マンマ製品展示室は常設しておりますのでお気軽にご利用いただけます。暖だんの展示物品は、協力メーカーよりお預かりしているもので暖だんでは販売はしていませんが、一部病院の中のショップで購入できるものもおいています。ウィッグも高価なものから1万円以下の安価なものまであります。一番大事なものは、「とにかく自分が気に入る」こと！「気に入る」ものが見つかったら少し笑顔になれたりもしますし、「以前からこんな髪型や色にしてみたかったのよ～」と新しい自分を発見される方もいらっしゃると思います。セミナーや展示室を利用して、ご自分らしくいられる「これなら頑張れそう！」と思えるものを見つけていただき、少しでも不安が軽減できるようなお手伝いができればと思います。

(患者・家族総合支援室 室長 福島 美幸)



暖だん
サロン・セミナー・イベント情報はこちら



📧 がんセンターだより

知事表彰をいただきました。

グループふれ愛は立ち上げから28年を迎えました。この間ボランティアの高齢化やボランティアの減少がある中で2020年からは新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが起こり感染症対策のため、3年間の活動停止になりました。その間解散もせず出来る活動をしましたが、退会者が増え大きな打撃をうけました。負の影響は今も続いています。そのような中でも、いつか患者さんに寄り添える活動が来る事を願っていました。そして令和6年6月からは、入院病棟での図書貸出の活動が再開しました。少ない人数での活動は会員の負担も大きく、だからこそやりがいもあり、頑張っています。

そのような中、令和6年10月開催の第72回愛媛県社会福祉大会において、私達「グループふれ愛」が社会福祉奉仕団

体部門において、知事表彰をいただきました。会員一同の心に光がさしました。28年間コツコツと努力したことに対してのご褒美をいただいたと思います。この間私達を受け入れていただき、守っていただきました、四国がんセンターの皆様は心からの感謝と敬意を表します。私達はこれからも、歩みを止める事なく出来る活動をしてまいります。「グループふれ愛」は仲間を募集しています。少しの生活時間をボランティア活動に使ってみませんか。社会奉仕活動をしませんか。これからも私達は患者さんにそっと寄り添う活動をしながら、自身の成長に繋げてまいります。院内で私達ボランティアがお役に立てることがありましたらどうぞお声かけください。

(病院ボランティア「グループふれ愛」代表 塚野 加代)



治療中の働き方に関する相談を実施しています!

～就職・就労相談状況のご報告～ 平成29年4月～令和7年2月

《新しく仕事を探している方のための就職相談》

相談延べ人数 885人 就職延べ件数 138件

《仕事を続けたい方のための就労相談》

相談延べ件数 113件

相談者の声

「病院で仕事の相談ができると思わなかった」
「話ができ、気持ちが楽になった」
「病気になった私でも、できる事があると思えた」

治療と仕事の両立支援



四国がんセンターは、がん患者さんの“働きたい!”をサポートしています。お気軽に、スタッフまでお声掛けください。

ちりょうさ

厚生労働省「治療と仕事の両立支援」キャラクター

【お問い合わせ】がん相談支援センター TEL:089-999-1114

医者のつづき リレーエッセイ



第三十回 すべらない話

病理外来開始、医師の特性、分子病理専門医受験と、医師らしい話を3回続けて書いた。ふざけた話ばかりだと、怒られるから致し方ない。しかし、今回はスキーの話をしたい。

末子の大学受験が終わってから毎年2月に夫婦でスキーに行くようになった。今行かないともう来年はいけるかどうか分からないからねと言っているのが反対のしようがない（不思議な構文が出来た）

若い頃、冬には毎週末行っていた。その頃はスキーバブルの頃だった。その頃岡山に住んでいて、ビッグホーンという四駆を持っていた。岡山人は4時に起きて4時半に家を出て、3時間かけて雪の明智峠（トンネルが出来る前はとんでもない悪路）を越え、中国地方最高峰・大山に乗り付ける。満車の駐車場からスキー靴をはいて2mのソロモンを担いで20分歩いて、大山国際スキー場に至る。大仕事だが、大丈夫。上の方は傾斜30度で、ゲレンデコンディションは雪ではなく岩という超難関コースだが、一本滑っても1kmもないし、滑走後毎回リフト待ちが30分くらいあるのでゆっくり休憩出来るから大丈夫。滑り斃して、また4時間かけて、家に帰るのは夜中。時には凍った道でスピンとかあるが、ジープタイプだから大丈夫（大丈夫ではない）。今

考えると魔物のような体力があった。

還暦の今、知事が仕事終わりにちょっとナイトスキーに行くような愛媛人なのでそんなことしない。年に一回飛行機で東京に行って、昼にスキー場につく。駅前で軽く食べて、歩いてホテルに入って板（なんと往時より50cmも短い）と靴を借りたら目の前がゲレンデ！

最近のスキー場はあまり混んでない。コースだって丁度良いくらいの傾斜が頂上から麓まで続く。軽く数本滑って、『リフト待ちがないから休めない』と文句を言ってみる。

ゲレンデトップに上がると、まあ、ビールを飲む。昔と違って自信がないからちょっとだけ飲む。『雪山では、がつがつ自分が滑るんじゃなくて、みんなうれしそうに遊んでいるのを見て楽しむのが大人』と言うと、嫁さんも最近は反対しなくなった。

で、日が暮れるから16時台には引き上げる。翌日も15時には引き上げる。人が減ると大人の楽しみ方が出来なくなるからね。風呂に入って、日が暮れる前に地ビールを飲む。昨年行ったスキー場はホテルからスキーヤーを見ながら飲めて楽しかった。2泊3日でも3日目は滑らない。

これだけすべらないので、家に帰ったら分子病理専門医に通ったと言う知らせが来ていた。

（病理科医長 寺本 典弘）



新作が見られなくなってしばらく経つが、理由はわからない。



3月下旬から4月上旬にかけて、菜の花（別名：菜種）の咲いている時期に降り続く雨のことを「菜種（なたね）梅雨」と言うそうです。菜の花をはじめ色々な花を催す（咲かせる）という意味で「催花雨（さいかう）」という別名もあります。春雨（はるさめ）はこのころの優しい雨のことを言う場合が多いようです。「菜種梅雨」の季節が終わり、5月初旬は「たけのこ梅雨」、そして5月中旬からは「卵の花くたし」。その

後、梅の実の熟す頃、本格的な「梅雨」がやってきます。この雨の合間に桜やいちご狩り、ピクニックや潮干狩りなど楽しめる行楽がたくさんやってきます。行楽につきものなのはお弁当。冬の寒さも和らぎ暖かな季節となった今こそ食中毒にご注意を。作る前にはよく手を洗い、清潔な調理器具を使用し、新鮮な食材を使用して野菜はしっかり洗います。ハンバーグはしっかり中まで加熱し、おにぎりはラップなどを使い直接手が触れないように握ります。ご飯、おかずを盛り付ける時はよく冷ましてから。食べるまでは涼しいところに保管し、車の窓際やトランクの中など、高温になる所にはお弁当を置かないようにしましょう。食べる前には手を洗ってから。さあ、召し上がれ！春の息吹を少しでも感じてもらえるよう当院では祝い膳を提供しています。

（栄養管理室長 酒永 智子）

がんセンター ハイ!一句 俳句ポスト



作品が選ばれましたら、四国がんセンターニュース（年4回発行）と選者発行の「俳句ライフマガジン『100年俳句計画』」（隔月誌）へ掲載するほか、当院ホームページ等インターネットやテレビ、ラジオなどの各種媒体にてご紹介させていただきます。

選者：三瀬明子(俳句ライフマガジン「100年俳句計画」発行人)



特選 柚子茶煮る母の続きを生きてます

(山花さん 80歳・女性)

作者は今、お母様が亡くなった時の年齢を越えていて、その母の分まで、続きを生きてゆくよと思いながら暮らしているのでしょうか。柚子茶は、母が生前よく作ってくれたのかもしれませんが。柚子を煮る時の甘くほろ苦い香りが母の記憶を甦らせます。読者はまず柚子の香りを想起し、そのあと作者の思いを知ります。巧みな語順です。



特選 「また来てな」言葉かみしめ寒に入る

(茶花さん 68歳・女性)

入院している親しい誰か（おそらく家族）から、「また来てな」と声を掛けられたのでしょうか。病は長引いているのでしょうか、経過は良好でしょうか。「言葉かみしめ」というフレーズから察すると…。一番寒い季節への突入が、厳しくつらい状況を想像させます。「かみしめ・寒」の「か」の韻も効いています。

入選 友が来るねゆきもとかすやさしきで

(森下房子さん 66歳・女性)

ねゆき（根雪）は、春先まで長期間雪が残っている状態のこと。その友人がくれば、根雪をもとかすやさしさと温かさで満たされる。根雪は、作者自身のつらく重い心の比喩でもあるのでしょうか。この友情に胸が熱くなりました。

入選 妹に早く会いたい前のよに

(宮本隆司さん 53歳・男性)

兄妹のどちらかが当センターにいらっしゃるのでしょ。病気ではなく元気であったころのように。兄妹愛がストレートに伝わります。

入選 採血の腕を押さへて春を待つ

(御転婆さん 65歳・男性)

季語の斡旋がさりげないが巧みです。採血後、「血が止まるまでガーゼ押さえてくださいね」というよくある場面。季節の春の到来のみならず、病気の快癒、朗報をも待っておられるのでしょうか。春よ来い♪

【食べ物おいしい句】

もういっこトンカツもらう冬の夜
やきいもをわってじいじと半分こ

(のち女さん 8歳・女子)

のち女さんの食べ物二句が、何と言っても美味しそう。トンカツはサクサク、やきいもは、ほかほかで今はやりのねっとり系のよう。語呂の軽快さが、そのような印象を生むのでしょう。

入選 雪の朝命の狭間吾は知らず

(樹懶菴さん 62歳・男性)

目覚めた時、外が一面の銀世界であった驚き。夜の間、手術かもしれませんが、命を左右する時間があったのでしょう。雪の白さも生還の安堵も、ことさら胸にしみたことと。

入選 凍てついた朝日が昇るを覚悟する

(愛媛のみちこさん 58歳・女性)

「凍てついた朝日」ではなく、「凍てついた朝日が昇る」のを覚悟するので、そこには希望を感じました。「を」を外すと音数も整い、昇る・覚悟するという動詞の連続がより印象的になると思います。



皆さんの「一句」募集中

患者さんのご要望で生まれた四国がんセンターの俳句ポスト、「ハイ!一句ポスト」。大変ご好評をいただいております。設置場所は、各階エレベーター前、図書コーナー、総合案内、患者支援センター「向日葵」で、作品は随時募集中です。患者さん、ご家族、面会の方、職員、どなたでも気軽にご投稿ください。皆さんの「自慢の一句」「楽しい一句」をお待ちしております。

当院は予約制を行っており、予約患者さんを優先しております

診療科		月	火	水	木	金	
消化器	内科	食道・胃・大腸	梶原(化)	仁科(化)	仁科(化)	梶原(化)	小森(化)
		肝・胆・膵	西出(内)	-	久門(内)	日野(化)	長谷部(内)
	外科	食道・胃	-	羽藤	-	柿下	-
		大腸	中田	高津	-	池谷	-
呼吸器	内科	肝・胆・膵	-	大田	-	小嶋	-
		内科新患	○加藤(有)	○加藤(有)	-	加藤(有)	☆上月
	外科	○近藤	○加藤(有)	○二宮(FAX)	○二宮	近藤	
		山下(素)	上野	土生	重松	重松	
緩和ケア内科	末久	成本	成本	三浦(耕)	三浦(耕)		
泌尿器科	橋根(FAX紹介のみ)	担当医	橋根	担当医	辻岡	辻岡	
	○新患/予約外は午前のみ	瀬戸	-	辻岡	-	深谷	
血液腫瘍内科	曾我部	-	曾我部/深谷	-	瀬戸	-	
感染症・腫瘍内科	阿部	吉田	阿部	吉田	-	-	
婦人科	○濱田	担当医	担当医	○濱田	担当医	担当医	
	竹原/坂井	予婦人科医師	竹原	予婦人科医師	藤本/孤下	坂井	
	横山	-	藤本	-	横山/日比野	-	
乳腺外科	日比野	-	孤下	-	横山/日比野	-	
	青儀	高嶋	高嶋(三)	青儀	高嶋	-	
	河内	高嶋(三)	河内	山下(美)	宇野	-	
形成外科	-	山下(美)	△近藤(碧)	-	-	-	
	△山下(昌)	○山下(昌)	-	-	○山下(昌)	-	
頭頸科・甲状腺腫瘍科 (耳鼻咽喉科)	門田	担当医	門田	担当医	橋本	橋本	
	橋本/田口	-	橋本	-	田口	-	
予骨軟部腫瘍・整形外科	青木	-	青木/岡	-	岡	-	
	杉原	杉原	杉原	-	杉原	-	
歯科口腔外科	片山	片山	片山	-	片山	-	
	古川	古川	古川	古川	古川	-	
放射線	加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	加藤(翼)	-	
	診断科	清水	桐山	清水	桐山	細川	
予麻酔/疼痛外来	治療科	濱本	濱本	長崎	神崎	神崎	
	原田	★首藤(聡)/☆正岡	-	-	-	武智	
併存疾患センター 【※1は院内紹介のみ】	予リンパ浮腫外来	-	○山下(昌)	-	-	○山下(昌)	
	予リンパ浮腫ケア外来	-	リンパ浮腫ケア(自費)	-	-	リンパ浮腫ケア(自費)	
	皮膚科	藤山	藤山	藤山	藤山	藤山	
	精神科	-	-	-	福本	-	
	眼	-	○大橋※1	-	-	○大橋※1	
	循環器内科	○倉田	○倉田/△東※1	○倉田	○倉田	△吉井・船田※1	
予ストーマ外来	内分泌内科	-	-	松原※1	-	-	
	糖尿病内科	-	○川村/羽立※1	○高門※1	-	○高門/池田※1	
予原発不明がん診療科	脳神経外科	-	-	-	○園枝・山下・西川※1	-	
	橋根	高津	○橋根	○小嶋	-	-	
予セカンドオピニオン	予がんゲノム医療外来	-	△青儀	-	-	-	
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
予遺伝性がん診療科 【※2はサーベイランス外来】	予病理外来	担当医	-	担当医	-	-	
	△山本	○山本※2	○山本	○山本※2	山本	-	
予がん看護外来	予がんドック	-	△山本	-	○大住	-	
	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	担当看護師	
酒井	徳永	酒井	徳永	酒井	-		

予…予約のみ ○…午前のみ △…午後のみ ★…奇数週 ☆…偶数週 (化)…化学療法担当 (内)…内視鏡治療担当
※診療担当は変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



スズラン (東温市横河原)
撮影：高市 瑞穂

外来診療一覧表

- 新患受付時間 7:30~12:00
- 診療時間 8:30~17:15
- 休診日：土・日・祝日及び年末年始

担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください

環境

“いで湯と城と文学の街”ここ愛媛の松山はノスタルジックあふれる城下町。当院はこの城下町の南東に位置し、東に霊峰石鎚、北に道後温泉、西に伊予灘を望み、自然に恵まれた最高の療養環境に立地しています。交通機関も伊予鉄巡回バスの運行など便を増やすことで来院も便利になりました。今後とも患者さんの視点に立った細かな配慮を心がけ、西日本を代表する「がん専門病院」として精進いたします。



院内にてFREE Wi-Fiがご利用できます。

四国がんセンター【公式】

Facebook



Instagram



四国がんセンター

〒791-0280
愛媛県松山市南梅本町甲160
TEL:089-999-1111
FAX:089-999-1100
https://shikoku-cc.hosp.go.jp

TRAFIC ACCESS 交通のご案内



車でお越しの場合

- 松山空港から車で 約45分
- JR松山駅から車で 約30分
- 松山市駅から車で 約25分
- 松山自動車道
 - 松山インターから車で 約20分
 - 川内インターから車で 約20分
 - 東温スマートインターから車で 10分

電車・バスでお越しの場合

